



仁淀病院からお知らせ

せつしょくえんげ ～摂食嚥下療法チームの 活動について～



えんげ <嚥下障害とは>

脳血管障害、高齢で徐々に日常生活レベルが低下したり、肺炎等の感染症や手術後で、長期の臥床で廃用症候群(体全体の筋力が低下する)、耳鼻科的病気などが原因となり食べる能力が落ち、食後に咳、くしゃみ、声枯れが出るなどが出現します。ひどくなれば肺炎を繰り返したり、痩せてきたりします。さらに進行した方は、経管栄養(鼻からチューブを入れたり、胃ろうといって直接胃にチューブを入れてその管を通して流動物を摂ること)が必要となります。



せつしょくえんげ <摂食嚥下療法チーム>

この嚥下障害を改善させるリハビリとして摂食嚥下療法がありますが、仁淀病院では平成19年6月から摂食嚥下療法チームを立ち上げました。看護師を主体として、医師、歯科医師、栄養士、言語聴覚士、理学療法士などの多職種がチームとなり、色々な方面から問題点を探り、食べることを目的とした訓練を行っています。



<チーム医療の必要性>

寝たきりのままでは食事は摂れませんので、座らせる、声を出すなど食べること以外の機能の向上も合わせて行うことが大事で、多方面からの専門的知識が必要になるからです。

また、歯科的にも口腔をきれいにし、唾液の分泌を促し、唾をきちんと飲むことは、誤嚥(誤って気管の方に食事やバイ菌が入ること)の予防になります。実際には、食事の際の座る角度、頭の位置、食事の形態、一口量の調節、口の周りの筋肉のマッサージ、口腔のマッサージをするなどの訓練を行います。そして口腔ケア(歯、歯間、歯茎、舌などをきれいにすることも併せて行います。

<仁淀病院での取組>

一般病棟では、1日平均6名程度の方にこの訓練を行っています。また、療養病棟でも訓練を行っています。看護師が嚥下障害がありそうだと判断した場合、医師が嚥下機能を評価し、必要だと思われる方に看護師又は言語聴覚士が訓練を毎日行います。週一回チームのスタッフが患者さんを回診し、訓練内容の変更などを検討しています。摂食嚥下療法を行うことで普通食まで摂取可能になる方もおられます。ただし、全ての方に改善が見られるわけではありません。しかし、このようなアプローチを行うことで肺炎の予防につながったり、楽しみ程度でも口から食べる喜びをもっといただけることが挙げられます。この取組は高知県国保学会及び全国の国保学会(於:神奈川県)で発表しました。今後も研修を続けるとともに、さらに発展させ、患者さんのお役に立てればと思っています。

内科総合診療 安岡 伸和

いの町文化協会からのお知らせ

この度、伊野公民館3階に新しく舞台が設置されました。今回この舞台上、「こけら落とし」の行事を行います。是非お越しください。

日時 3月22日(日) 13時30分～
場所 伊野公民館3階大集会室2
演目 日本舞踊、吟剣詩舞、楽器演奏、フラダンス、その他
入場料 無料

